

pal's club (4回目)

1, 趣 旨

ネイパル森周辺のフィールドを活かしながらも体験活動を行い、異年齢交流や創造性・感性を育てる機会とする。

2, 期 日

平成27年3月21日(土)～22日(日) 1泊2日

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 参加対象

小学校1年～3年生

5, 参加実績

○通年をとおした対象の参加者内訳

	1年		2年		3年		合計
	男	女	男	女	男	女	
1 乙部小			1				1
2 神山小				1			1
3 木古内小			1				1
4 鍛神小		1					1
5 北日吉小				2			2
6 久根別小			1				1
7 高丘小			1	1			2
8 中ノ沢小	1			1		2	4
9 七重小				1	1		2
10 浜分小	1			1	3		5
11 附属函館小				1		2	3
12 松城小	1						1
13 南本通小		1			1		2
14 森小	1				1		2
15 弥生小		1	1				2
合計	4	3	5	8	6	4	30
学年合計	7		13		10		
男女合計	15人/男			15人/女			

※4回目は、キャンセル4名であったため26名の参加があった。

6, プログラム内容

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
29 土	12:30 受付 13:00 開会式	開会式	思い出をふりかえろう			夕食※準備含む (パーティー)		みんなで 遊ぼう	入浴 自由時間	就 寝
30 日	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		起床 掃除 洗顔	朝食 活動準備	創作活動			お別 れ会 閉 会 式	12:00 解散		

7, 活動の様子

開会式では、阿部所長が「これまで仲間で、たくさんの体験をしてきた。思い出作りとして部屋に色々垂な仕掛けをしているので楽しみにしてほしい。」と挨拶した。

開会式後は、今日泊まる部屋で寝床づくり。マットレスを敷き、寝袋で寝る。ボランティアとも打ち解けた感じで、楽しくおしゃべりしながら、用意していた。

その後は、グループで館内を探検。カヌーや等身大の牛の絵。カレーライスを作った野外炊事の道具などが置かれてある場所に、それぞれグループでいって、思い出を振り返り、みんなで記念撮影。どの参加者も自分たちの体験し



たことを思い出しているようで、色々なポーズを決めて撮影していた。撮影したものは、その場ですぐに写真になって出てくる。自分の姿や仲間の様子をみて、互いに確かめ合っていた。

夕方からは、パーティーを行った。みんなで協力していきながら準備を行った。その後は、自由時間。体育館で鬼ごっこなどをして、楽しく遊んだ。夜は、宿泊部屋で寝袋に入って寝た。

二日目は、全員元気に起床。洗面、着替えをして、朝食。次に、寝る時に使った寝袋などをそれぞれ片付けた。

次に、思い出の写真を置く写真たてを作り、アルバムにした。それぞれ思い出に飾りつけなどをして、オリジナルなものを創り上げた。その後は、「お別れ会」。

Pal' sclub に参加して無事に終えたことを記念して、一人一人に修了証がネイパル森阿部所長より手渡された。神妙な顔で受け取る参加者もいて、終わりを惜しむ姿も見ることができた。最後に閉会式を行い、第4回目の事業を終えた。

参加者からは、「みんなと遊んだり工作を作ったりしたのが、楽しかったです。これから学校やお家では、自分のことは自分でやるようにしたいです。」「みんなとこれまでのことを振り返ってみたら、思い出がこんなにいっぱいあるんだなと思った。これからは、お家の手伝いや宿題を頑張りたい」などといった感想があった。



8, 参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- 寝袋をしまう時、3年生が手伝ってくれた。とても嬉しかった (1年生)
- みんなと遊べて楽しかった (2年生)
- 写真たてを創ることや、思い出アルバムを作ったのが楽しかった (2年生)

9, 事業の分析と考察

本事業の趣旨が「ネイパル森周辺のフィールドを活かしながらも体験活動を行い、異年齢交流や創造性・感性を育てる機会とする。」であり、その中でも今年度は“地域の素材”を活用した1年間をとおしたプログラム構成となっている。1回目は、駒ヶ岳麓にある大沼でのカヌー体験。2回目、ネイパル森近隣農家からいただいた作物を使ったカレーライス、3回目は大沼周辺の卵と牛乳を使ったホットケーキ作りとカフェ体験。それぞれテーマをもち、近隣のフィールドを活かしながら体験活動の提供を行っていきることができた。4回目は、過去3回の活動を仲間と振り返っていけるプログラムを行った。プログラムでは、個性豊かなアルバム作りや写真たてを創った。過去のネイパル森周辺のフィールド体験を思い出していきながら、創造性・感性を高めていくことができた。

また、保護者から「普段あまり話をしない子が、どんどん自分から話をしていくようになった」「進んで手伝いをしてくれるようになった」という声が上がっている。このことから、体験活動が家庭で活かされていることがわかる。



9, 成果と課題

○成果

- ・欲張らないタイムスケジュールで時間にゆとりをもって活動することができた。

○課題

- ・今回の低学年事業のノウハウを、来年度事業へ活かしていけるように行っていきたい。